

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 総合環境性能評価システム 名古屋版 (2016年7月改訂) ■ 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)第2名古屋三交ビル再開発計画	階数	地上14F、地下1F
建設地	名古屋市中村区名駅三丁目1905番及び1906番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 竣工	評価の実施日	2021年11月29日
敷地面積	2,745 m ²	作成者	
建築面積	1,631 m ²	確認日	2021年11月29日
延床面積	17,927 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE3.1

★:S:★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B:★★ C

BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値
②建築物の取組み
③上記+②以外のオンサイト手法
④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア=3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア=4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.6

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
西日を遮りつつ、建物の顔となる西面ルーバーを中心に省エネルギー性に配慮したオフィスビル。	・特になし。	
Q1 室内環境 自然制御ブラインドにより glare を制御した。空気環境に配慮して仕上げ材は☆☆☆☆を採用するよう計画した。	Q2 サービス性能 執務空間の天井高を2.7m以上とし、快適性に配慮した。パスを用いた検討により、内装デザインに梁よした計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 景観に配慮した西面ファサードと、広場状内部空間により街並みに配慮した計画とした。
LR1 エネルギー LEW-eガラスの採用をはじめ、建物の空調負荷を削減した。	LR2 資源・マテリアル 衛生器具は全面的に節水型器具を採用した。既設躯体を再利用した計画とした。雨水利用を行った。	LR3 敷地外環境 十分な駐車台数を確保し、交通負荷抑制に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された

重点項目スコア・結果シート

(仮称)第2名古屋三交ビル再開発計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				4.1
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 3.1



3. 循環型社会

評価点 = 4.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。